

(日置郡金峰町大字尾下字山野原)

位置と環境

本遺跡は、金峰山から田布施平野の中心にのびる標高約20m前後の尾下台地上に立地する。台地の広がりには長さ約2km、幅約300mにおよぶもので、同じ台地上には弥生時代後期を代表する松木藪遺跡が所在している。

調査の経緯

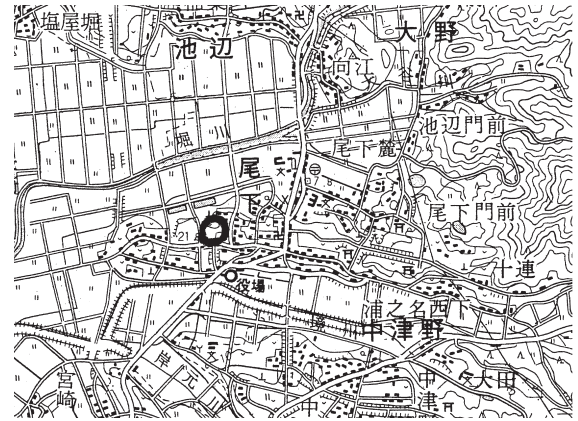
遺跡は、平成5年から平成6年にかけて、畑地の地下げ計画に伴い、金峰町教育委員会が調査主体となり本調査を実施した。調査対象面積は、1,572m²である。

遺構と遺物

調査の結果、旧石器時代細石刃文化期、縄文時代早期・後期・晩期、弥生時代前期・後期、古墳時代、平安時代、中世の多岐にわたる遺物や遺構が発見された。

細石刃文化期の遺物は、赤色頁岩製の厚手の剥片を素材とした細石刃核1点と細石刃2点が出土した。縄文時代早期の遺物は、塞ノ神式、押型文、撚糸文、縄文時代後期の市来式、縄文時代晩期の上加世田式、入佐式などの土器が出土し、集石1基が発見された。また、弥生時代では前期の刻目突帯文、弥生時代後期の松木藪式、中津野式土器などが出土し、竪穴住居跡1軒が検出された。

本遺跡の調査では、最も多くの遺物や遺構が発見されたのが平安時代前期の資料である。須恵器や土

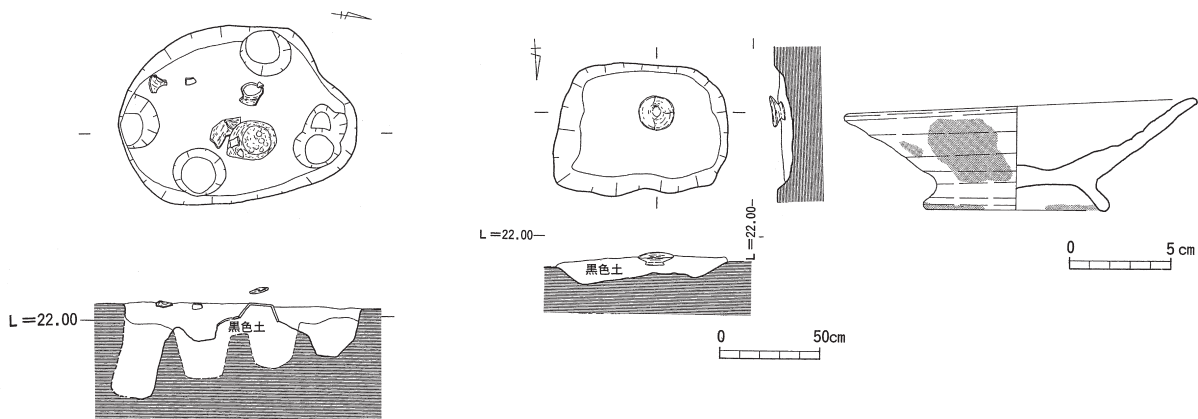


第1図 山野原遺跡の位置

師器の坏、埴、甕、壺をはじめ赤色土器、黒色土器、墨書土器、ヘラ書き土器、製塩土器が出土し、遺構は、掘立柱建物跡16棟、土壌墓1基、祭祀に関する土坑2基、溝状遺構などが発見された。

墨書土器およびヘラ書き土器には、「三ト」、「井多」、「良」と読める文字が確認された。このうち須恵器の小壺に記されていた「三ト」については、「3たびトしたうち2度吉が出れば、それによって事を決する。」という意味合いがあり、陰陽道によるト占を行っていた可能性を示す貴重な資料である。「良」については、吉祥句の一つであり祭祀的な性格を持つものとして注目される。そして「井多」であるが、墨書・ヘラ書き土器の両方で出土しているが、意味するところについては「井」と「多」の組み合わせによる集落の記号的なものなのか、祭祀的な意味を含むものなのか不明である。

掘立柱建物跡は、2×3間とするものが多く東西にのびる溝状遺構が区画溝となり、これらに多くの



第2図 祭祀に関する土坑

建物跡が囲まれる格好で配置されていた。さらに、祭祀に関したと考えられる土坑が2基検出され、平安時代前期の集落構造を知るうえで貴重な資料である。

そのほかに、中世の龍泉窯系青磁や白磁などの貿易陶磁器や国内産の瓦質土器、陶器、土師器なども出土しており、旧石器時代～中世にかけての複合遺跡であることが確認された。

特徴

墨書土器やヘラ書き土器などの文字資料に加えて、祭祀に関する土坑の発見によって、本遺跡で祭祀行

為が行われていた可能性が高かったことは特筆すべきである。本遺跡が一般的な集落であったのか、末端の官衙的な性格を持っていたのか、注目すべき点は多く、今後に残された課題は多い。

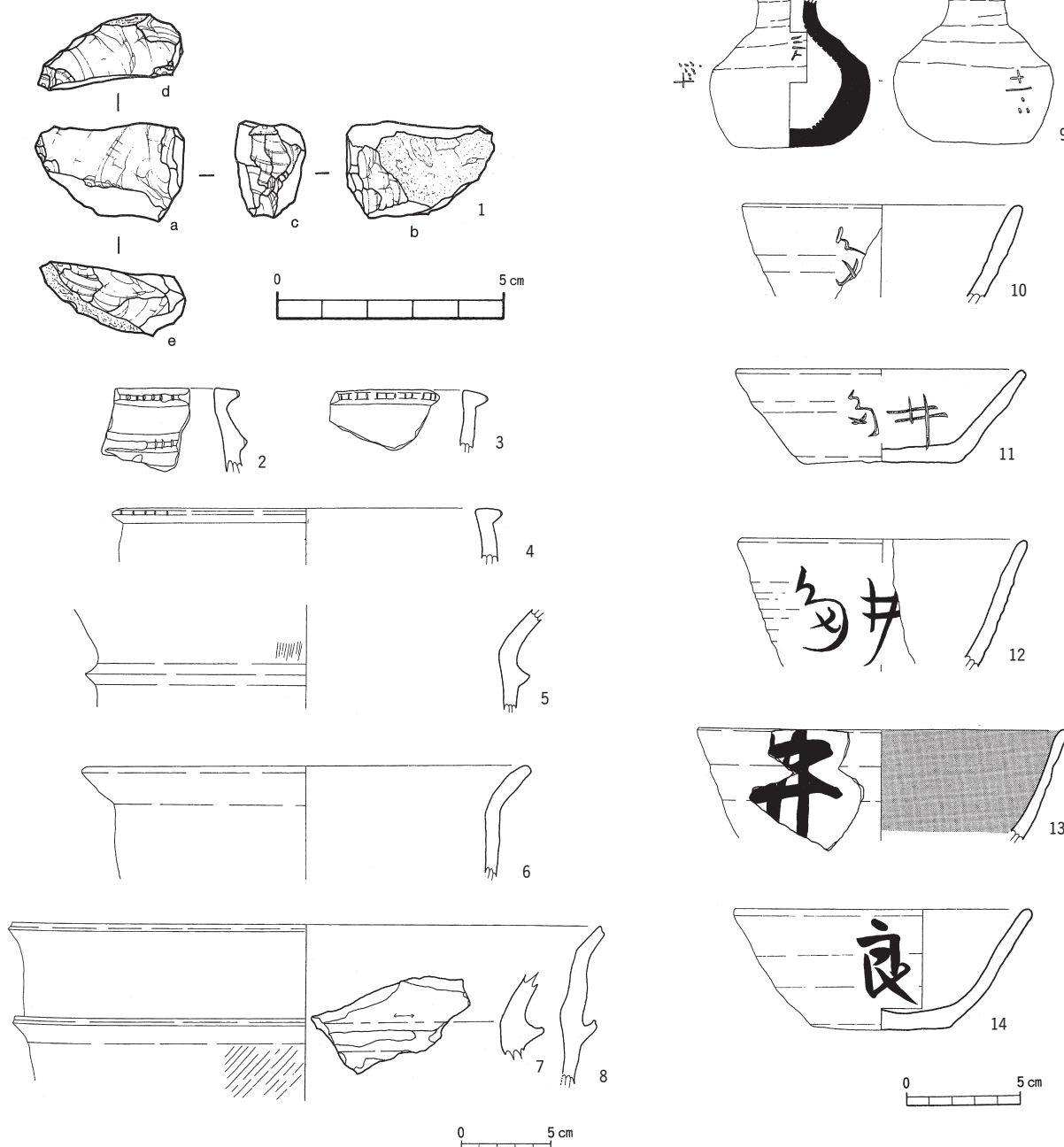
資料の所在

出土した遺物は、金峰町教育委員会に保管されている。

参考文献

金峰町教育委員会1995「山野原遺跡」『金峰町埋蔵文化財発掘調査報告書』7

(宮下貴浩)



第3図 出土遺物